

オンライン熱海文学館デジタルアーカイブ構築業務 機能確認書

技術選択の自由度を確保するため、本確認書に記載する各機能において、表示方式、画面レイアウト、UI コンポーネント、検索アルゴリズム、データ処理方式、インデックス更新方式、ネットワーク構成、サーバー構成、使用ライブラリ等の技術的な詳細設計については、提案者が最適な方式を選定するものとする。

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
1	利用者環境/対応環境	デバイス	PC、スマートフォン、タブレット 各デバイスにおいて、主要機能(閲覧、検索、コンテンツ表示)が問題なく利用できること	非機能	
2	利用者環境/対応環境	OS/ブラウザ	OS：Windows、macOS、iOS、Android ブラウザ：Chrome、Safari、Edge、Firefox の最新安定版 以上の利用者環境において主要機能が問題なく動作すること	非機能	
3	利用者環境/対応環境	OS/ブラウザ	対応環境として指定した OS・ブラウザについて、正式版リリース後に提供される最新安定版への動作確認および必要な対応を、速やかに行うこと	非機能	
4	利用者環境/対応環境	OS/ブラウザ	OS・ブラウザの更新により表示や動作に影響が生じた場合、保守対応の範囲として適切に修正を行うこと	非機能	
5	利用者環境/対応環境	接続	インターネット接続環境下で利用できること 一般的なブロードバンド回線およびモバイル回線で、主要機能(閲覧、検索、コンテンツ表示)が適切に動作すること 大容量コンテンツ(画像・PDF・動画等)について、適切な読み込み方式により閲覧可能であること 通信環境が不安定な場合でも、最低限の閲覧が可能となるよう配慮すること	非機能	
6	利用者環境/対応環境	その他	閲覧ユーザーが追加のアプリケーションソフトやプラグインをインストールする必要がないこと PDF、画像、音声、動画、3Dモデル等のコンテンツは、ブラウザ標準機能により閲覧・再生できること 特定のアプリケーションやプラグインに依存しない構成とすること	非機能	
7	ハードウェア/ネットワークサービス	プラットフォーム	クラウド型プラットフォームシステムで公開すること	非機能	ガバメントクラウド採用のサービスから選定すること
8	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	安定稼働し、一般的なアクセス数に耐えうる構成であること	非機能	
9	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	SSL(https)による暗号化通信を必須とすること	非機能	
10	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	バックアップ機能を備えること	非機能	
11	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	セキュリティ対策(脆弱性対応、ログ管理等)を講じること	非機能	
12	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	追加データに対応できる拡張性を確保した構成とすること	非機能	
13	ハードウェア/ネットワークサービス	サーバー	CMS管理画面を用いて更新できること	機能	
14	ハードウェア/ネットワークサービス	機器間の伝送路の確保	運用に必要な機器間(サーバー、管理端末、検証環境、バックアップ環境等)の通信が安定して行えるネットワーク経路が確保されていること 通信は、適切なセキュリティを確保した方式(例：HTTPS 等)により行われること 外部ストレージやクラウドサービスを利用する場合、必要な通信が安定して行えること	非機能	
15	ハードウェア/ネットワークサービス	インターネット接続	システム管理者および閲覧ユーザーと本システムとの接続は、インターネット接続を前提とすること 特定の専用線やVPN接続を必要としない構成とすること	非機能	
16	セキュリティ要件	ファイアウォール	適切なファイアウォール(WAF 等)を含むセキュリティ対策を講じること	非機能	
17	セキュリティ要件	セキュリティ対策	不正アクセス防止、脆弱性対策、ログ管理等を含む総合的なセキュリティ設計を行うこと	非機能	
18	セキュリティ要件	通信の暗号化	SSL/TLS(HTTPS)による暗号化通信を必須とすること	非機能	
19	セキュリティ要件	システム構成	負荷分散やサーバ構成変更柔軟に対応できる構成とすること 必要に応じてロードバランサ等を用い、公開用サーバの可用性を確保すること	非機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
20	セキュリティ要件	利用者認証	システム管理者に対し、利用者IDとパスワード等による利用者認証を行うこと	機能	
21	セキュリティ要件	アクセス制御	利用者の役割に応じて適切なアクセス権限を設定できること 管理者、編集者、閲覧ユーザー等の権限に応じて、閲覧・編集・削除等の操作を制御できること ファイルやデータへのアクセスは、適切な権限管理に基づき制御されること	非機能	
22	セキュリティ要件	サーバー環境のセキュリティ維持	サーバーOS、ミドルウェア、ライブラリ等について、提供元が公開するセキュリティパッチや更新プログラムを適切に適用し、常に安全な状態を維持すること 重大な脆弱性が発見された場合、速やかに対応を行うこと	非機能	更新に伴う動作確認は保守範囲として実施すること
23	セキュリティ要件	ウイルス対策	サーバー環境において、マルウェア・ウイルス等の脅威に対する適切な対策を講じること ウイルス定義ファイルや検知エンジンの更新を継続的にを行い、常に最新の状態を維持すること	非機能	
24	可用性要件	稼働性の確保	一般的な利用状況において安定し、稼働率は99.5%以上とすること ピークアクセス時にも主要機能が利用可能であること 必要に応じて負荷分散等の方式を用いて可用性を確保すること	非機能	
25	可用性要件	冗長化	サーバー、ストレージ、ネットワーク等について、単一障害点(SPOF)を排除し、必要な冗長化を行うこと	非機能	
26	可用性要件	バックアップ・復旧性	データ消失を防ぐため、クラウドサービスが提供する冗長化機能を適切に利用すること バックアップを取得し、障害発生時に復旧できる体制を確保すること バックアップの頻度・保持期間は提案に含めること 復旧作業は保守範囲として実施すること	非機能	
27	可用性要件	障害対応	障害発生時には速やかに状況を把握し、復旧対応を行うこと 障害の原因調査および再発防止策を実施すること	非機能	
28	可用性要件	計画停止(メンテナンス)	本システムの計画停止(メンテナンス)は、必要最小限とし、事前(1週間以上前)に通知すること 計画停止の実施時間帯は、利用者への影響が少ない時間帯とすること 緊急メンテナンスが必要な場合は、速やかに通知し、影響範囲を最小化すること	非機能	
29	公開画面(UI/UX)	デバイス対応	PC、スマートフォン、タブレットにおいて、主要機能(閲覧、検索、コンテンツ表示)が適切に利用できる UI とすること 各デバイスの画面サイズに応じて、レイアウトや操作性が最適化されること	機能	
30	公開画面(UI/UX)	トップページ	利用者が目的のコンテンツにアクセスしやすい構成とすること 主な機能(検索、カテゴリ、最新情報等)へ直感的に移動できる導線を設けること	機能	
31	公開画面(UI/UX)	ナビゲーション	PC・スマートフォン・タブレットで適切に利用できるナビゲーションを提供すること 階層構造が分かりやすく、主要機能へ迷わずアクセスできること	機能	
32	公開画面(UI/UX)	検索 UI	利用者が目的の資料を容易に検索できる検索機能を提供すること キーワード検索、カテゴリ検索、フィルタ等を適切に利用できる UI とすること 検索結果は見やすく、必要な情報(タイトル、概要等)が確認できること	機能	
33	公開画面(UI/UX)	コンテンツ表示(ビューア)	画像、PDF、音声、動画、3Dモデル等のコンテンツをブラウザ上で閲覧・再生できること 拡大縮小、ページ送り、再生・停止等、必要な操作が直感的に行えること	機能	
34	公開画面(UI/UX)	関連情報の表示	コンテンツに紐づくメタデータ(タイトル、作成年、説明等)を適切に表示すること 関連資料へのリンクや、同一シリーズ・同一テーマの資料への導線を提供すること	機能	
35	公開画面(UI/UX)	統計情報の表示(件数表示)	本システムに登録されているメタデータ、コンテンツ、テキスト等の件数を利用者が確認できるように表示すること 件数は最新の状態が反映されること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
36	公開画面(UI/UX)	アクセシビリティ	JIS X 8341-3:2016 のレベル AA に準拠したアクセシビリティに配慮すること 文字サイズ、コントラスト、キーボード操作等、基本的なアクセシビリティ要件を満たすこと	機能	
37	公開画面(UI/UX)	階層ナビゲーション(パンくず等)	利用者が現在位置を把握しやすいよう、階層構造を示すナビゲーションを提供すること 上位階層へ容易に移動できる導線を設けること	機能	
38	公開画面(UI/UX)	エラーページ(404/500 等)	ページが存在しない場合(404)やサーバーエラーが発生した場合(500 等)に、利用者に分かりやすいメッセージを表示すること トップページや前のページへ戻るための導線を提供すること	機能	
39	検索	検索対象	本システムに登録されているメタデータ、コンテンツ、テキスト等を検索対象とすること 目録、テキスト、年表、索引を対象に、検索キーワードによる検索ができること 検索対象とする項目の詳細はメタデータ定義に基づくこと 検索対象の拡張が必要な場合は、管理画面から設定できること(任意)	機能	
40	検索	検索条件(フィルタ)	タイトル、作成年、カテゴリ、資料種別等、主要なメタデータ項目で絞り込みができること フィルタ項目はメタデータ定義に基づき設定すること 年代・作成年について、範囲指定による絞り込みができること	機能	フィルタ項目はメタデータ定義に基づく
41	検索	検索方式	キーワード検索を提供すること 部分一致検索を基本とし、複数語の検索にも対応すること	機能	
42	検索	検索結果の表示	検索結果一覧に、タイトル、概要、作成年等の主要情報を表示すること 並び順(新しい順、古い順など)を変更できること	機能	
43	検索	検索速度・パフォーマンス	一般的な利用状況において、検索結果を適切な時間内に返すこと データ件数が増加した場合でも、検索性能を維持できる構成とすること 必要に応じてインデックス等の最適化を行うこと	機能	
44	検索	検索インデックス更新方式	メタデータおよびコンテンツ情報の更新時に、検索インデックスへ適切に反映されること 更新方式(即時／バッチ／遅延)は提案者が最適な方式を提示すること 大量データ更新時にも検索性能を維持できる構成とすること	機能	
45	検索	並び替え(ソート)	検索結果について、並び順(例：新しい順、古い順、タイトル順等)を変更できること 利用可能な並び替え項目はメタデータ定義に基づき設定すること	機能	
46	検索	検索結果の件数表示	検索結果の件数(ヒット数)を利用者が確認できるように表示すること 件数は検索条件に応じて正しく反映されること	機能	
47	検索	検索結果一覧	検索結果一覧に、タイトル、概要、作成年、資料種別等の主要情報を表示すること 必要に応じてサムネイル画像を表示できること グリッド表示(サムネイル中心)とリスト表示(テキスト中心)を切り替えて利用できること ページネーション(ページ番号、前へ／次へ等のページ移動 UI)に対応すること 検索結果の表示件数および並び順を変更できること	機能	
48	検索	検索結果一覧(コンテンツ種別に応じた表示)	コンテンツ種別(画像、PDF、目録、テキスト、年表、索引等)に応じて、適切な形式で検索結果を表示すること	機能	
49	検索	ファセット検索	検索結果に対し、カテゴリ、資料種別、年代、権利情報等の主要メタデータ項目を軸としたファセット(絞り込み)機能を提供できること ファセット項目はメタデータ定義に基づき設定すること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
50	検索	検索結果詳細ページ(個別ページ)	メタデータ定義に基づき、対象資料の詳細情報(タイトル、作成年、説明、権利情報等)を表示すること コンテンツ種別(画像、PDF、テキスト、年表、索引等)に応じて、適切なビューアまたは表示画面へ遷移できる導線を提供すること 関連資料(同一シリーズ、同一カテゴリ、同一テーマ等)へのリンクを表示すること	機能	
51	検索	機関検索	単独の機関内検索だけでなく、複数機関の横断検索に対応すること	機能	
52	メタデータ定義	メタデータ項目の定義	メタデータ項目は、所蔵管理に利用可能な項目を備えること 資料種別(目録、テキスト、年表、索引等)に応じて必要な項目を設定すること メタデータ項目の追加・変更が必要となった場合、管理画面から設定できること	機能	
53	メタデータ定義	高度メタデータ項目(構造・識別子)	以下のような資料構造や識別子に関する高度なメタデータ項目について、必要に応じて設定できること ----- 資料間の階層関係(親子関係、シリーズ構造等)を表す項目 IIIF manifest(URL または JSON)を保持する項目 コンテンツに付与される国際的な識別子として、DOI(Digital Object Identifier)を保持する項目 必要に応じて、国内 DOI 登録機関(例：JaLC、Crossref、DataCite 等)のメタデータ登録・更新に対応できる構成 ----- これらの項目は任意項目とし、資料種別ごとに必要に応じて設定できる構成とすること	機能	
54	メタデータ定義	高度メタデータ項目(権利・利用条件)	以下のような権利情報・利用条件に関する高度なメタデータ項目について、必要に応じて設定できること ----- ジャパンスーチの権利表示(RightsStatements.org 等)と連動可能な権利情報の項目 利用条件(利用可否、申請要否等)を保持する項目 デジタルコンテンツの二次利用条件(商用利用可否、改変可否、クレジット表記の要否、申請要否等)を保持する項目 Creative Commons ライセンス(例：CC BY、CC BY-NC 等)または同等の利用条件を設定できる項目 ----- これらの項目は任意項目とし、資料種別ごとに必要に応じて設定できる構成とすること	機能	
55	メタデータ定義	高度メタデータ項目(拡張・カスタム項目)	以下のような拡張性・運用性を高めるメタデータ項目について、必要に応じて設定できること 必要に応じて多数のメタデータ項目(例：150項目以上)を設定できる柔軟な構成とすること ----- 所蔵管理に利用可能な項目(所蔵機関コード、管理番号、棚番号等) 任意の項目名を設定できる汎用的なメタデータ項目(カスタム項目) リンク等、特定の HTML(例：a タグ)を安全に埋め込める項目 メタデータと紐づくコンテンツを指定できる項目 メタデータと紐づくコンテンツのサムネイル画像を設定できる項目(手動設定または自動生成) ----- これらの項目は任意項目とし、資料種別ごとに必要に応じて設定できる構成とすること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
56	コンテンツ表示	共通	コンテンツ(画像、PDF、音声、動画、3Dモデル、パノラマ画像、オンライン地図等)を、ブラウザ上で適切に閲覧・再生できること 複合資料はコンテンツ表示を優先すること UI/UX 共通要件に準拠すること	機能	
57	コンテンツ表示	コンテンツ遷移(サムネイル→ビューア)	目録検索結果一覧、またはメタデータ詳細画面に表示されたサムネイル画像をクリックすると、静止画像ビューアに遷移し、閲覧用の画像を表示できること 複数画像を持つ資料の場合、該当する画像をビューア内で選択状態として表示すること	機能	
58	コンテンツ表示	静止画像ビューア	画像コンテンツ(JPEG、PNG、TIFF 等)をブラウザ上で閲覧できること 拡大・縮小、ドラッグによる移動、全画面表示、ページ送り(複数画像の場合)、回転機能、付箋(任意)などを直感的に行えるインターフェイスにすること	機能	
59	コンテンツ表示	静止画像ビューア	IIIF(International Image Interoperability Framework)に対応した画像ビューアを利用できること IIIF Image API に準拠した画像のタイル表示・高解像度表示に対応していること	機能	
60	コンテンツ表示	静止画像ビューア	IIIF Image API に準拠した画像配信サーバを利用できる構成とすること IIIF 配信サーバを利用しない場合でも、同等の高解像度画像表示方式を提案すること	機能	
61	コンテンツ表示	3Dビューア	3Dモデル(OBJ 形式)をブラウザ上で閲覧できること 回転、拡大・縮小、視点変更などを直感的に行えるインターフェイスにすること	機能	
62	コンテンツ表示	3Dビューア(メタデータ遷移)	3Dビューア画面内に資料タイトルを表示し、タイトルを選択するとメタデータ詳細画面へ遷移できること 複数の関連資料がある場合、該当する資料のメタデータ詳細を表示できること	機能	
63	コンテンツ表示	パノラマビューア	360度画像・パノラマ画像をブラウザ上で閲覧できること 視点のドラッグ移動、拡大・縮小、全画面表示などの操作ができること	機能	
64	コンテンツ表示	パノラマビューア	パノラマ空間の平面図を表示・非表示でき、位置がマッピングできること	機能	
65	コンテンツ表示	パノラマビューア	パノラマ空間内にアイコンを設置し、解説情報を埋め込むこと	機能	
66	コンテンツ表示	音声・動画ビューア	音声・動画コンテンツをブラウザ上で再生できること 再生・停止、シークバー、再生時間表示、音量調整、全画面表示を直感的に行えるインターフェイスにすること	機能	
67	コンテンツ表示	音声・動画ビューア	大容量コンテンツに対応するため、ストリーミング配信方式に対応していること	機能	
68	コンテンツ表示	その他	オンライン地図やVRコンテンツなど、外部サービスを利用した各種Webコンテンツ表示に対応できること	機能	外部サービスの利用規約に従うこと
69	テキスト表示	共通	テキストコンテンツ(プレーンテキスト、構造化テキスト、OCRテキスト等)をブラウザ上で適切に閲覧できること UI/UX 共通要件に準拠すること	機能	
70	テキスト表示	テキストビューア(基本機能)	テキストコンテンツを閲覧するための基本機能を備えること 対象テキストのタイトルを表示すること 目次(TOC)を表示でき、各見出しから該当箇所へリンクできること 文字サイズ変更(拡大・縮小)ができること ページ内検索(キーワード検索)ができること ページ内ジャンプ(見出し・章構造がある場合)ができること 全文コピー(権利情報に応じて制御可能)	機能	
71	テキスト表示	テキスト内の図版・表・HTML挿入	テキスト内の任意の位置に、図版・表・HTML要素を挿入できること HTML の表(table)を挿入できること 画像(図版)をテキスト内に挿入できること レイアウト崩れが起きないよう適切に表示されること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
72	テキスト表示	構造化テキスト表示	章・節・段落などの構造化されたテキストを適切に表示できること 見出しレベル(H1～H3 等)に応じた階層表示ができること セクション間を移動できるリンクを提供すること 自動生成されたTOCと見出し構造が連動し、選択した見出しへ移動できること	機能	
73	テキスト表示	OCRテキスト表示	画像から抽出した OCR テキストを表示できること ----- 原画像と OCR テキストの並列表示 OCR テキストの全文検索への連携 誤認識箇所の修正	機能	
74	テキスト表示	縦書き・横書き対応	和文資料等において、縦書き表示に対応できること ----- 縦書き／横書きの切り替え ルビ(ふりがな)表示(任意) 行送り・文字方向の調整	機能	
75	テキスト表示	アクセシビリティ対応	テキスト表示において、アクセシビリティに配慮した表示が行えること JIS X 8341-3:2016 レベル AA に準拠すること キーボード操作によるスクロール・フォーカス移動ができること スクリーンリーダーで読み上げ可能な構造とすること コントラスト比を適切に確保すること	機能	
76	年表表示	共通	年表(Timeline)形式の資料をブラウザ上で適切に閲覧できること UI/UX 共通要件に準拠すること	機能	
77	年表表示	年表ビューア(基本機能)	年表データを時系列に沿って表示できること 年(西暦)順に並べて表示できること 出来事(イベント)を年ごとに表示できること 出来事をクリック／タップすると詳細情報を表示できること 関連資料(画像・テキスト・目録等)へのリンクを表示できること	機能	
78	年表表示	表示形式(リスト／カード／縦軸／横軸)	縦スクロール型のリスト表示 横スクロール型のタイムライン表示 カード型レイアウト 年ごとの区切り(セクション)表示	機能	
79	年表表示	フィルタ・検索	年表に対して、以下の検索および絞り込み機能を提供すること ----- キーワード検索ができること カテゴリ項目が存在する場合、カテゴリによる絞り込みができること(任意) 年代範囲による絞り込みができること(スライダーまたは入力欄) 年号・時代から西暦の範囲を自動特定し、年月日の入力を補助できること(任意) 特定のキーワードを含む出来事のみを抽出し、年表を再構成できること	機能	フィルタ項目はメタデータ定義に基づく
80	年表表示	詳細表示(個別ページ)	年表の出来事を選択した際に、詳細情報を表示できること 出来事の詳細説明を表示できること 関連資料(画像、テキスト、目録等)へのリンクを表示できること 関連年表項目(同年・前後の出来事)への導線を提供すること	機能	
81	年表表示	アクセシビリティ対応	年表表示において、アクセシビリティに配慮した表示が行えること JIS X 8341-3:2016 レベル AA に準拠すること キーボード操作によるスクロール・フォーカス移動ができること スクリーンリーダーで読み上げ可能な構造とすること コントラスト比を適切に確保すること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
82	年表表示	複数年表の切り替え・比較表示	複数の年表を切り替えて表示できること 選択した2つの年表を左右に並べて比較表示できること 比較表示時は、それぞれの年表が独立してスクロールできること	機能	
83	年表表示	ページ送り・ページ指定表示	年表が複数ページとなる場合、ページ送りボタン等によりページを切り替えられること ページ番号を指定して任意のページへ移動できること ページ送り時もスクロール位置や表示形式が維持されること	機能	
84	索引表示	共通	索引(Index)形式の資料をブラウザ上で適切に閲覧できること UI/UX 共通要件に準拠すること	機能	
85	索引表示	索引情報の表示	対象となる索引データセットのタイトルおよび概要を表示できること 索引の対象範囲(メタデータ、テキスト、年表等)が明確に分かるように表示すること	機能	
86	索引表示	索引語一覧表示	索引語(キーワード)を一覧形式で表示できること 五十音順・アルファベット順など、適切な並び順で表示できること 索引語の頭文字ごとのジャンプ(A～Z、あ～ん)ができること 索引語ごとに関連資料数を表示できること	機能	
87	索引表示	索引語の動作	索引語を選択すると、当該語に関連する資料一覧を表示できること 関連資料(メタデータ、テキスト、年表等)へのリンクを表示できること 索引語の詳細情報(読み、別名、説明等)を表示できること(任意)	機能	
88	索引表示	検索連携	索引語を選択した際に、当該語を検索キーワードとして、メタデータ検索・テキスト検索・年表検索を実行できるリンクを提供すること	機能	
89	索引表示	関連資料一覧の表示	索引語に紐づく関連資料を一覧形式で表示できること 資料種別(画像、テキスト、年表、目録等)を識別できる表示形式とすること 関連資料をクリックすると、該当資料の詳細ページへ遷移できること	機能	
90	索引表示	フィルタ・検索	索引語に対して、以下の検索および絞り込み機能を提供すること ----- キーワード検索 頭文字(A～Z、あ～ん)による絞り込み カテゴリ項目が存在する場合、カテゴリによる絞り込み	機能	フィルタ項目はメタデータ定義に基づく
91	索引表示	アクセシビリティ対応	索引表示において、アクセシビリティに配慮した表示が行えること JIS X 8341-3:2016 レベル AA に準拠すること キーボード操作によるスクロール・フォーカス移動ができること スクリーンリーダーで読み上げ可能な構造とすること コントラスト比を適切に確保すること	機能	
92	CMS(管理機能)	共通	本システムの管理者が利用する管理画面(CMS)を提供すること PC で操作しやすい UI とすること ログイン後にダッシュボード(概要画面)を表示できること 主要機能(メタデータ管理、コンテンツ管理、ユーザー管理、履歴管理、システム設定等) へアクセスできるメニューを提供すること エラー発生時には管理者向けのメッセージを表示できること	機能	
93	CMS(管理機能)	ダッシュボード	管理画面のトップに、システムの概要を確認できるダッシュボードを表示できること 登録件数(メタデータ、コンテンツ等)を表示できること 最近の更新履歴を表示できること システム状態(任意)を表示できること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
94	CMS(管理機能)	メニュー構成	管理画面において、以下の機能へアクセスできるメニューを提供すること ----- メタデータ管理 コンテンツ管理 ユーザー管理(管理者・編集者) 履歴管理(操作履歴・アクセス履歴・検索履歴) システム設定(機関情報・基本設定) 外部連携設定(任意)	機能	
95	CMS(管理機能)	操作性・アクセシビリティ	管理画面において、操作性およびアクセシビリティに配慮した UI を提供すること 主要操作が3クリック以内で行えること(任意) キーボード操作に対応すること フォーム入力時のエラー表示を分かりやすく行うこと	機能	
96	CMS(管理機能)	検索・フィルタ(管理画面)	管理画面において、メタデータやコンテンツを検索・絞り込みできること キーワード検索ができること 資料種別・作成年等のフィルタが利用できること 並び替えができること(任意)	機能	
97	CMS(管理機能)	一覧表示・ページネーション	管理画面において、メタデータやコンテンツを一覧で表示できること 一覧に主要項目(タイトル、資料種別、更新日時等)を表示できること ページ番号、前へ／次へ等のページ移動 UI を提供すること 表示件数を変更できること(任意)	機能	
98	メタデータ管理	メタデータ形式	メタデータの登録・更新・エクスポートに使用するデータ形式を統一すること CSV 形式でインポート／エクスポートできること CSV の符号化形式は UTF-8 とすること 項目の並び順はメタデータ定義に基づくこと	機能	CSV の詳細仕様(区切り文字、改行コード等)は提案者に委ねる
99	メタデータ管理	メタデータ項目の符号化・文字コード	メタデータの保存および入出力において、文字化けが発生しないよう適切な符号化形式を使用すること UTF-8(BOMなし)を基本とすること 特殊文字(濁点・半濁点・旧字体等)を正しく扱えること	機能	
100	メタデータ管理	登録・編集・削除	管理画面からメタデータを1件単位で登録・編集・削除できること 入力フォームで項目ごとに値を設定できること 入力値に対してバリデーション(必須項目、形式チェック等)を行うこと エラー時には分かりやすいメッセージを表示すること	機能	
101	メタデータ管理	一括登録・更新	CSV ファイルを用いてメタデータを一括登録・更新できること 登録前にプレビュー(確認画面)を表示できること エラー行のみを抽出して再アップロードできること	機能	
102	メタデータ管理	メタデータの整合性チェック	メタデータ登録時に、関連項目の整合性を確認できること ----- 関連資料 ID の存在チェック 資料種別に応じた必須項目のチェック 日付形式のチェック	機能	
103	メタデータ管理	メタデータのバージョン管理	メタデータの変更履歴を保持し、必要に応じて過去バージョンを参照できること ----- 更新日時・更新者の記録 差分の確認	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
104	コンテンツ管理	コンテンツ形式	本システムで扱うコンテンツ(画像、PDF、音声、動画、3Dモデル等)の形式を統一し、適切に管理できること コンテンツはメタデータと紐づけて管理すること IIIF に対応する画像コンテンツについては、IIIF Image API に準拠した形式を扱えること ファイル種別(画像／PDF／音声／動画／3Dモデル)をメタデータ項目と連動して管理すること	機能	
105	コンテンツ管理	登録・編集・削除	管理画面からコンテンツファイルを 1 件単位で登録・編集・削除できること ファイルアップロード機能を提供すること アップロード時にファイル形式・容量のチェックを行うこと メタデータとの紐づけ(関連メタデータID)を設定できること コンテンツの差し替え(再アップロード)ができること	機能	
106	コンテンツ管理	一括登録・更新	複数のコンテンツファイルを一括で登録・更新できること ZIP 形式等で複数ファイルをまとめてアップロードできること ファイル名とメタデータIDの対応表(CSV)を用いて紐づけできること エラー行のみを抽出して再アップロードできること	機能	
107	コンテンツ管理	コンテンツの整合性チェック	コンテンツ登録時に、メタデータとの整合性を確認できること ----- 関連メタデータID の存在チェック ファイル種別とメタデータ項目(資料種別)の整合性チェック 画像・PDF・動画等のファイル破損チェック(任意)	機能	
108	コンテンツ管理	サムネイル生成	コンテンツに対応するサムネイル画像を自動生成できること ----- 画像の縮小版を自動生成 PDF の 1 ページ目をサムネイル化 動画の静止画サムネイル生成	機能	
109	コンテンツ管理	コンテンツのバージョン管理	コンテンツファイルの更新履歴を保持し、必要に応じて過去バージョンを参照できること ----- 更新日時・更新者の記録 差し替え前のファイルを保持	機能	
110	ユーザー管理(管理者・編集者)	管理ユーザーの認証	管理画面にアクセスする管理ユーザーに対し、利用者IDとパスワードによる認証を行うこと ログイン画面を提供すること パスワードは安全な方式で保存・管理すること(ハッシュ化等) 一定回数のログイン失敗時にロックまたは制限を行うこと(任意)	機能	
111	ユーザー管理(管理者・編集者)	管理ユーザーの権限管理	管理ユーザーに対し、役割に応じた権限を設定できること ----- 管理者(全機能の利用・設定変更) 編集者(コンテンツ登録・編集、メタデータ編集等) 閲覧ユーザー(ログイン不要、管理画面にはアクセス不可) 権限に応じて、利用可能な機能・画面を制御できること	機能	権限の詳細は提案者に委ねる
112	ユーザー管理(管理者・編集者)	管理ユーザーの登録・編集・削除	管理画面から管理ユーザーのアカウントを登録・編集・削除できること ----- ユーザー名、メールアドレス、権限区分を設定できること パスワードの初期設定・再設定ができること アカウントの有効／無効を切り替えられること	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
113	ユーザー管理(管理者・編集者)	操作ログ	管理ユーザーの主要操作についてログを記録できること ----- ログイン／ログアウト コンテンツ登録・編集・削除 メタデータ編集 設定変更	機能	
114	ユーザー管理(管理者・編集者)	パスワードポリシー	管理ユーザーのパスワードに対し、適切な強度を確保するためのポリシーを設定できること ----- 最低文字数 英数字・記号の組み合わせ 有効期限	機能	ポリシーの詳細は提案者に委ねる
115	履歴管理(ログ管理)	共通	本システムにおける各種ログ(操作履歴、アクセス履歴、検索履歴)を適切に取得・保存できること ----- ログは一定期間(例：1年間)保持できること ログの保存形式や実装方式は提案者に委ねる 必要に応じて管理画面から確認できること 個人情報を含む場合は適切にマスキングまたは匿名化すること	機能	
116	履歴管理(ログ管理)	操作履歴(管理ユーザー)	管理ユーザーによる主要操作について、操作履歴(操作ログ)を記録すること ----- ログイン／ログアウト メタデータの登録・編集・削除 コンテンツの登録・編集・削除 設定変更(システム設定、ユーザー管理等) エラー発生時の操作内容	機能	
117	履歴管理(ログ管理)	アクセス履歴(閲覧ユーザー)	閲覧ユーザーのアクセス状況を、個人を特定しない形で記録できること ----- アクセス日時 閲覧したページ(トップページ、検索結果、資料詳細ページ等) 利用デバイス(PC／スマートフォン等) IP アドレスは必要に応じて匿名化すること	機能	個人情報保護に配慮した形式で記録すること
118	履歴管理(ログ管理)	検索履歴	利用者が入力した検索キーワードを、個人を特定しない形で記録できること ----- 検索キーワード 検索日時 検索結果件数	機能	統計情報として活用する目的に限ること
119	履歴管理(ログ管理)	ログのエクスポート	取得したログを CSV 形式でエクスポートできること ----- 期間指定でのエクスポート ログ種別(操作／アクセス／検索)の選択	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
120	システム設定(機関情報・基本設定)	機関情報の管理	デジタルアーカイブを運営する機関の基本情報を管理画面から設定できること ----- 機関名 アーカイブ名 ロゴ画像 機関の説明文 問い合わせ先情報 著作権表記・クレジット	機能	
121	システム設定(機関情報・基本設定)	公開設定・基本設定	デジタルアーカイブ全体の基本設定を管理画面から変更できること ----- トップページの表示設定 公開／非公開の切り替え(メンテナンスモード) 検索設定(デフォルト並び順、表示件数等) コンテンツ表示設定(ビューアの初期設定等) メタデータ項目の表示／非表示設定	機能	設定項目の詳細は提案者に委ねる
122	システム設定(機関情報・基本設定)	外部サービス連携設定	必要に応じて外部サービスとの連携設定を行えること ----- Google Analytics 等のアクセス解析設定 IIIF manifest の外部公開設定 外部API連携の設定(任意)	機能	外部サービスの利用規約に従うこと
123	開発・検証環境	検証環境(ステージング環境)	本番環境とは別に、検証環境(ステージング環境)を用意すること 新規機能・新規コンテンツの公開前に動作確認を行えること 本番環境と同等の機能・データ構造を備えること 管理者が自由に操作・確認できるアクセス権限を設定すること	機能	検証環境の構成(サーバー仕様・デプロイ方式等)は提案者に委ねる
124	開発・検証環境	データ同期	本番環境のデータを検証環境へ複製できる仕組みを備えること	機能	個人情報・非公開資料は除外できること
125	開発・検証環境	公開前チェックフロー	新規機能・新規コンテンツは、検証環境での確認後に本番へ反映する運用フローを想定すること 検証環境での確認項目(表示・検索・メタデータ整合性等)を実施できること	機能	
126	外部連携機能	共通	本システムに登録されたメタデータおよびコンテンツ情報について、外部サービスとの連携を行える構成とすること 外部連携の有効／無効を管理画面から設定できること 外部サービスの仕様変更に対応できる柔軟な構成とすること 連携用 API キーやエンドポイント URL を管理画面から設定できること(任意)	機能	外部サービスの利用規約に従うこと
127	外部連携機能	NDLサーチ(国立国会図書館サーチ)への提供	本システムのメタデータを NDLサーチへ提供できる構成とすること NDLサーチが定めるメタデータ形式(DC-NDL 等)に準拠したデータを生成できること 提供対象の資料種別を管理画面から選択できること 提供データの更新(差分更新)に対応すること	機能	提供方式(OAI-PMH 等)は提案者に委ねる
128	外部連携機能	OAI-PMH プロトコル対応	本システムに登録されたメタデータを OAI-PMH 形式で外部へ提供できること OAI-PMH 2.0 に準拠すること メタデータ形式(oai_dc、junii2 等)を選択できること セット(Set)単位での提供に対応すること	機能	
129	外部連携機能	SRU(Search/Retrieve via URL)プロトコル対応	外部システムから SRU プロトコルを用いて検索・取得できること SRU 1.2 に準拠すること CQL(Contextual Query Language)による検索に対応すること 検索結果を XML 形式で返すこと	機能	

No.	大項目	小項目	内容	区分	備考
130	外部連携機能	EBSCO Discovery Service(EDS)との連携	EBSCO Discovery Service で検索可能となるよう、必要なメタデータ提供に対応できること ----- EBSCO が要求するメタデータ形式に対応 提供対象資料の選択	機能	
131	外部連携機能	収蔵管理システムとの連携	収蔵品管理システムの Web API 等を利用し、収蔵データ(目録・画像等)を定期的に取得して本システムへ自動登録できること メタデータ(目録情報)および画像ファイルを取得できること 差分更新(新規・更新・削除)に対応できること API の仕様変更に対応できる柔軟な構成とすること 取得頻度(例：毎日／毎週等)については提案者の裁量とする 連携方式(API／CSV 等)は、収蔵管理システムの仕様に応じて提案者の裁量とする	機能	